【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和８年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	伊万里市立牧島小学校

1　前年度 評価結果の概要	・情報リテラシーなどメディアの付き合い方について育友会教育講演会や学級活動等で啓発を行ってきたが、テレビ等の視聴時間が多く、家庭学習の時間が十分確保できていない。家庭学習の大切さやゲームや動画等の視聴時間に関する家庭でのルールを決めて実行できるように、これからも学校と家庭が連携して改善に努める。 ・基礎学力の定着を図るために、ＩＣＴを活用した児童が主体的に取り組む授業づくりや家庭学習でのタブレットの活用、読書（家読等）の推進に取り組んでいく。また、教科を絞り授業改善にも取り組む。 ・本年度は5・6年生のキャリア教育を行い、故郷で働く人々について伊万里を見直すきっかけとなった。地域との連携を通して保護者、地域、学校が協力し、児童がふるさとのよさを知り、自分のキャリアステージについて考える教育活動に取り組んでいく。
2　学校教育目標	えがお　あふれる　牧島小 ～共に、夢中で遊び、夢中で学ぶ牧島っ子の育成～
3　本年度の重点目標	【知】「確かな学力」の向上を果たす教育活動の推進 【徳】「豊かな心」を育む教育活動の推進 【体】健康で安全な生活を送り、体力の向上を果たす教育活動の推進 【特色ある学校】「啓成中校区コミュニティスクール」の充実

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ・授業の内容・方法・考え方を活用するための取り上げ方の工夫等をすることにより、学びの深まり合いの充実を図っていき、ふり返りをもとに、児童一人一人の考え方を高めるための授業作り・教材研究を行う。 ・児童の意識や学習の深まり、ふり返りに関しての意識について調査を行い、分析・考察をすることで変容を明らかにする。 また、学力については、各学期におけるテストやCRTの結果・学習状況調査結果について分析・考察を行う。	○教職員間で学力向上に向けての方向性を定め、校内研修等により取組の促進を図る。 ○『授業中は、自分の考えを書いたり話したり、友達の考えを聞いたりして最後まであきらめずに学習に参加していますか。』『先生は、電子黒板や具体物を使って教材を準備し、わかりやすく授業を進めていますか。』の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合が80%以上を目指す。 ○『宿題は家に帰ってすぐに行い、低（30分）、中（40分）高（60分）より多くしていますか。』の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合が80%以上を目指す。	・教職員間で学力向上に向けて共通理解、共通実践内容を共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・教材研究に努め、思考し、表現する場を設定し、見方・考え方を働かせる授業を仕組み、研究授業を行う。 ・家庭への理解を呼びかけ、家庭学習の手引きや学習の様子を知らせ、宿題の徹底に努める。 ・「やりたい」「楽しい」家庭学習を工夫する。		・		・		・	学力向上推進リーダー 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・「人権意識の向上に努めている」と回答した教員80%以上。 ・「道徳の学習をしたときは人の気持ちや自分のことを考えている」と回答した児童80%以上。	・縦割り班活動で遊んだり、掃除したりする活動を年に3回以上実施する。 ・「ほかほかタイム」で人権の話をする。「ほかほかだより」を発行して保護者にも啓発する。 ・年に1回「ふれあい道徳参観」を実施する。		・		・		・	心づくり部 人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「牧島小学校はいじめのないよい学校である」に肯定的な回答した児童が80%以上。 ○『子どものことなど、学校に相談しやすい雰囲気が感じられる。』に肯定的な回答をした保護者80%以上。	・気になる児童や保護者と深く関わりながら、信頼関係の構築に努め、SCとSSWなど関係機関との連携等、積極的な支援を行う。 ・定期的なアンケート(児童・保護者)や教育相談の充実を図り、「いじめ」などの実態を把握し早急に取り組む。 ・全校いのちの講話を行い、児童の生命尊重の意識を高める。		・		・		・	心づくり部
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上。	・人権・同和教育の授業づくりを中心とする校内研究を行う。 ・体験活動を通して、地域の方との関わりを深める。 ・学校行事（運動会、感謝の会、スポーツチャレンジなど）の後に振り返り（キャリアパスポートなど）を行う。		・		・		・	心づくり部 キャリア教育担当
●健康・体つくり	◎「望ましい生活習慣の形成」	②規則正しい生活（適度な睡眠時間の確保、適度な運動量の確保）を意識した生活をしていると自覚している児童90%以上。	・昼休みの外遊びを推奨するとともに、体育的行事に関連したスポーツタイムを昼休みの最後10分程度設ける。 ・定期的なアンケートを実施し、職員間で情報交換及び全体での指導を行う。		・		・		・	体づくり部
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	◎「健康に食事は大切」と回答している児童85%以上。	・栄養教諭、学校栄養職員と連携して食に関する指導を年2回行う。 ・定期的なアンケートを実施し、職員間で情報交換及び全体での指導を行う。		・		・		・	体づくり部 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。 ●月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合20%以下。	・月曜日から木曜日は、終業時刻から最長2時間以内、金曜日は就業時間1時間以内を目処に退勤するよう全員で取り組む。 ・校時表の見直しや通知票等の成績事務を行う時期においての、放課後の時間の確保を行う。 ・会議の縮減、会議時間の短縮のために会議資料のペーパーレス化を進め、前日までには資料の確認ができるようにする。 ・長期休暇中に年休がとりやすいように、研修の期日をまとめる。		・		・		・	教頭
	○教育活動の整理・合理化	○行事の内容、数の精選を行う。その際、時間的・内容的に、どこがどう改善されたかが職員全員に意識できるようにする。	・行事や教育活動の前に削減できる部分はないかを検討し、行事の後にその振り返りを行う。削減したことが教育的にはどうだったかも検討し、今年度の計画書に結果や改善点を明記しておくことで次回へ繋げる。		・		・		・	教頭
●特別支援教育の充実	○教員の指導力と意識の向上	○ 特別支援を意識した学級経営や生活指導、支援に取り組んだ教員85%以上。	・特別支援に関する講師を招聘しての研修会の実施。 ・個別の教育支援計画・指導計画に基づいた支援。ケース会議の適切な開催、職員間の情報共有。		・		・		・	特別支援教育担当

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○ICTの活用	○ICTを活用した授業の取り組みの向上及び、児童の様子の観察	○ICTを活用した授業を全体の80%以上。 ○タブレットなどのICT機器を利活用することができていると感じている児童80%以上。	・定期的に研修や活用の提案を行い、教員全体が授業の中で取り組みやすい環境を作る。 ・児童のタブレット使用率を高める。 ・自宅でのタブレット利用を推進する。		・		・		・	教育情報化推進リーダー
○地域と連携した教育活動	○各学年、年間を通し地域と連携した学習活動の実施	○学校評価の『地域の方との学習を通して、地域のことを知ったり親しみをもったりしましたか』の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合が80%以上。	・地域連携会議を年間2回開催し、学習のねらい、時期、内容について共有する。 ・地域の各機関と連携し、体験活動を行うことで、地域のよさを確認し、郷土愛を育む。		・		・		・	教務

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志と誇りを高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・